



地球の“未来”のために
“食”ができること

サトウキビうまれの バイオマスバラ

お弁当においしさと一緒にやさしさ詰めてテイクアウト。
一度に全てをバイオマスに替えるのはむずかしいかもしれませんが
まずはひとつずつ。バランから始めてみませんか？



バイオマス
No.210420

廃糖蜜*から作った
植物性プラスチックを
30%以上配合

※サトウキビから砂糖を取った
後に残る糖蜜

使い方は通常のバランと同じ

安心の
日本製

食品衛生法
(370号)
基準適合

バイオマスバラ 3つのいいこと

1 CO₂排出量の削減

原料となるサトウキビは、育成時に光合成をして大気中のCO₂を吸収します

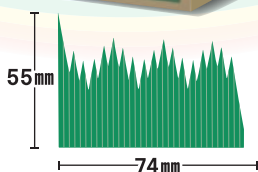
2 石油資源の節約

100%石油資源から作るポリエチレンとは異なり植物由来の原料を混ぜること
で石油資源の節約ができます

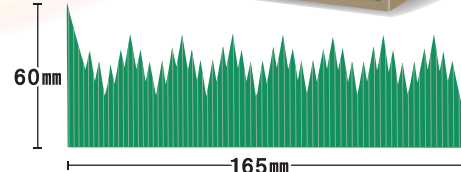
3 石油由来PEと同等

100%石油由来のポリエチレンと物性は
同じ

■三本杉1号



■仕切型



バイオマスバラ

	三本杉1号	仕切型
材質	バイオマス配合ポリエチレン	
製造国	日本	
入数	1000枚	
本体寸法(1枚)	縦55mm×横74mm	縦60mm×横165mm
JAN	4990798530024	4990798530123
ITF	14990798530021	14990798530120



パッケージに
古紙パルプ配合率
90%の再生紙を使用

【使用上の注意】 ●当製品を使用し、レンジアップする場合はできるだけ油脂性食品に接触させないようお願いいたします。 ●万全を期しておりますが、万一のバラン破片の混入にご注意願います。 ●火気に近づけないでください。

二酸化炭素排出削減について考えよう

2020年にレジ袋の有料化がスタートし、世の中の流れが脱プラに大きく変容しつつある昨今、環境配慮型プラスチックのニーズの高まりに対応すべく、世界中で開発が急ピッチで進められています。また、現在環境に配慮したプラスチックは大きく2種類に分類されます。

バイオプラスチック

「生分解性プラスチック」と「バイオマスプラスチック」の総称

1 自然に還る 「生分解性プラスチック」

微生物によって水と二酸化炭素に分解されるプラスチック。コンポストに投入した場合はより早く分解されます。また、焼却する際でも低い熱量で焼却できるため、エネルギーの負荷が軽減されます。

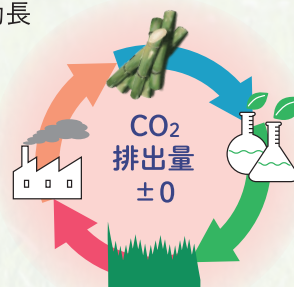
自然環境での使用や、リサイクルが難しい商品に用いられることが期待されています。



2 自然からできた 「バイオマスプラスチック」

バイオマス(生物資源)を原料とした植物性プラスチック。原料のトウモロコシやサトウキビ等が育つ際に吸収するCO₂が、焼却時に排出されるCO₂と相殺され±0となるため、地球温暖化を助長せず、石油や石炭等を使用しないため化石資源の節約にも貢献します。

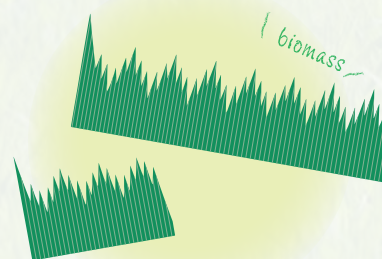
昨今よく聞く「**カーボンニュートラル**」とはこの理論を用いた取り組みを指します。



バイオプラスチックを取り巻く現状

生分解性プラスチックは、現段階では価格が高額であることや、廃棄した環境によっては完全に分解されなかったり時間がかかるなど、まだ課題があるのが実情です。

そのため、旭創業では二酸化炭素排出削減の取り組みとして、バイオマスプラスチックを導入することで地球温暖化の防止や化石資源への依存度低減に貢献することを推奨しています。



株式会社 旭創業

■札幌支店 Tel.011(806)0280 Fax.011(860)6661
■仙台支店 Tel.022(388)8801 Fax.022(388)6665
■東京支店 Tel.03(5206)5055 Fax.03(5206)5155
■長浜支店 Tel.0749(79)8118 Fax.0749(79)8119
■大阪支店 Tel.06(6695)3751 Fax.06(6695)3759
■広島支店 Tel.082(532)6155 Fax.082(532)6159
■九州支店 Tel.092(688)9600 Fax.092(688)9609

